

★2022年度 都内草の根助成 書類選考通過団体（投票用紙に番号又は団体名を記入）

私たちの生活圏であり、身近な地域である東京都内の市民活動を応援する助成です

団体 番号	団体名	助成の対象となる事業名と事業概要（応募用紙から）	申請額 (万円)
都 1	一般社団法人ペアチル	<p><b>ひとり親限定の友達マッチングアプリでコミュニティを作る活動</b></p> <p>「ひとり親限定の友達マッチングアプリ」はひとり親の方が自分や子供の年齢、子供の人数などの基本情報と、「ADHDの小学3年生の息子がいる」「パートナーが自殺してひとり親になった」「自分とは異性の子供がいる」などの細かい境遇を入力することによって、互いに理解し合えるひとり親の方とスマホで簡単に出会えるアプリ(ひとり親は完全無償で利用可)です。ひとり親の中には、仕事・育児・家事で時間がないため、リアルのひとり親コミュニティに行けない、Facebookグループには入りづらいといった方がおり孤独を深めています。また、「ひとり親」といっても「ひとり親になった経緯(離別、死別、未婚など)」「親や子の障害や病気の有無」「実父母の支援有無」など状況が千差万別であり、ひとり親同士であっても、相談しあえる関係になりづらいため、似た境遇のひとり親同士が出会える解決策が必要です。ペアチルは、新しい解決策として、気軽に、自分のペースで友だちが作れるアプリケーションにより、ひとり親の方々のコミュニティ形成をサポートします。</p>	50
都 2	若者団体 komurado	<p><b>子ども食堂や居場所施設にて、生活支援や学習支援。課題認知拡大への広報</b></p> <p>生きづらさを抱える子供達への支援はもちろん、そうした場所に次世代の若者を巻き込み、地域の中で活動することで、日本の将来的に、格差という解決困難な課題へ種をまく活動。</p> <p>大学教授と連携しながら、20以上の多様な大学からメンバーを集めています。(多様な地域に格差解決に挑むコアを形成するため)具体的には、外国にルーツのある児童や経済的困窮層への学習支援や、子ども食堂での運営や食事提供のボランティア、子供の遊びや親御様の相談の相手など、その活動内容は場所により多岐にわたります。11月から新規に始める活動場所を含めると、3拠点となります。また、キッズドアやハーフタイムなど、全国的に子供の貧困支援をされているNPOと連携することで、私たちの拠点で活動できない学生をそうした場所へ橋渡しをする、NPOと学生世界の接続を図ることで、将来的にこの社会をになっていくより多くの若者へ種をまく活動をしております。</p>	44.7
都 3	NPOfriends	<p><b>マイノリティの為に多様化推進交流イベント</b></p> <p>発達障がい(在留外国人の児童の発達障がいや適応障害も含む)の方々は、学校や社会においてマイノリティであり、孤立しやすい現状がある。そういった学生に対して、学外のコミュニティーを作り、学生と当該家族への相談支援及び、居場所作りを行っていく。開催場所は練馬区区民産業プラザCOCONERIを予定し、対面のイベントを中心に、遠隔地の方や、オンラインで無ければ参加出来ない方にオンライン参加も出来るハイブリッド型で運営する。</p> <p>集客の為に広報活動は、Facebookを利用したオンライン広告、また印刷したチラシなども作成し、練馬区内の学校関係に配布する。発達障がいの当事者であるメンバーが司会・進行、企画を行ない、関心の高い話題に対する、プレゼン資料を通して問題提起→ディスカッションの場を提供→交流の場を設ける→希</p>	49

		望者には個人カウンセリングと言った上記内容のサービスを提供する。このイベントは日本語と英語を主に使用した交流イベントであり、初回参加者は無料個人カウンセリングのアンケートに答える事で、必要なカウンセリングサービスをご体験頂ける。	
都 4	反貧困ネットワーク	<p><b><u>在留資格がない高校生サポート・プロジェクト—私たちはあなたたちを見捨けない</u></b></p> <p>在留資格がない仮放免の子どもたちは、義務教育期間中は就学援助を受けられるが、高校からは公的支援から排除される。そのため高校進学をあきらめたり、学費を払えず中退する子どもが少なくない。本団体は、仮放免高校生の学費を支援するプロジェクトを計画している。しかし、仮放免の子どもが経験する困難は金銭に留まらない。「勉強しても無駄」と入管職員に言われ続け、日本にいてはいけない存在だからと、自己の存在を否定される苦しみと無力感、経済的困難を上回る。生まれたときから「権利を持つ権利」すらないことを、周囲に理解してもらえず、こうした悩みを教員や友だちには話せないことも、苦しみを増幅している。仮放免高校生が尊厳を持って生きることは、学費支援だけでは達成できない。大学生チューターが伴走し、相談に乗ることで、日本社会に見捨てられていると思わされてつらい経験をする高校生が、進路への展望を持てるようにすることが、本事業の目的である。</p>	50
都 5	特定非営利活動法人 監獄人権センター	<p><b><u>受刑者の社会復帰を支援する FM 放送と再犯防止を刑務所所在地で</u></b></p> <p>弊会では 2022 年 4 月～6 月、元受刑者・支援者が出演する日本初のラジオ番組「刑務所ラジオ」を府中刑務所所在地の東京府中 FM で放送し、新聞 11 紙で紹介される等の成果を得た。</p> <p>放送では、刑務所出所者の社会復帰の厳しい現状等を紹介し、彼らの更生には地域住民の理解・協力が必要不可欠である事を発信した。府中刑務所は、1600 名（2021 年）を収容する日本最大の刑務所であり、年間 500 名以上が満期出所する（2021 年 538 名）。本事業では、刑務所出所者の社会復帰を支援する「刑務所ラジオ」を継続的に放送し、コミュニティ FM を利用したまちづくりに知見がある専門家の指導やイベント開催を通じ、地域住民目線の再犯防止・防犯・刑務所出所者への支援のあり方を刑務所所在地の FM 局から提案、発信する。</p>	50
都 6	ナタデココ	<p><b><u>子どもたちの文化交流教室</u></b></p> <p>在日外国人の協力の下、地元の小中学生に対して、クイズ、ダンス、音楽などを通じて、異文化に触れる機会となる日帰り教室を提供します。普段、外国人に出会う機会のない子どもたちが、楽しみながら、多くの異文化に触れることができます。</p> <p>①子供たちの「初めて」に寄り添うオリジナルプログラムを用意。</p> <p>②多国籍の外国人の参加。（過去参加の外国人：フランス、米国、中国、ベトナム、フィリピン、ブータン、ミャンマー、ケニア、ニジェール、ブラジル、ボリビアなど）</p> <p>③非営利で実施し、誰でも気軽に参加できる教室を実現。</p> <p>過去 1 年間で、5 回の文化交流教室を開催し、延べ 50 人以上の小中学生が参加。また、20 か国以上の在日外国人がボランティアスタッフとして参加。</p>	50

<p>都 7</p>	<p>マジョ研</p>	<p><b>メディア活動・教育活動・コミュニティ活動・調査活動</b></p> <p>主な助成対象はメディア活動、教育活動である。前者については、(1)行動する市井のマジョリティの人々へのインタビュー、(2)差別や社会構造・マジョリティ性に関する解説、(3)映画・ドラマ・書籍等の推薦コンテンツの紹介、(4)今できるアクション、(5)メンバーのモヤモヤや考えていること等について継続的に発信する。形式はウェブサイト上での記事・音声コンテンツ・ニュースレターを予定。後者は、マジョリティが学び行動するためのオンライン連続講座（入門編・実践編）やマジョリティ教育の実践者向け講座の企画・運営、学習用ツールキット制作（オンラインで公開）を実施する。</p> <p>加えて、講座参加者や寄付者等が悩みや工夫を共有できるコミュニティ（定期的な対話や恒常的な情報共有の場）の運営、マジョリティの意識調査も並行して実施する</p>	<p>50</p>
<p>都 8</p>	<p>フランポネ</p>	<p>日本にマイノリティと呼ばれている人がいる。例えば障害者や外国人がいる。「差別」がありそれを根絶するため多様性に対応したお笑いを作る。日本人とスイス人の国際夫婦（めおと）漫才コンビは日本で唯一「お笑いを通じた社会問題の解決」を実践している「ソーシャルビジネス芸人」である。</p> <p>マイノリティとマジョリティの人々が手を組み一緒に「お笑い」コンテンツを作ることで多様性に対応した「お笑い」となる。例えば障害者による「漫才大会」や日本人と外国人がコンビを組んだ「国際交流漫才」を実施することで誰もが参加でき、誰もが楽しむことができる。一緒に「お笑いコンテンツ」を作り上げることで相互理解を促進させ、その結果、差別意識を軽減させる。</p> <p>さらに「障害者による漫才大会」では約 20 万円程度のお金を運営資金として集める。障害者による漫才大会なのでネタを披露してくれた障害者に賞金が渡り、運営スタッフとしても障害者に加わってもらい漫才大会に関わった全ての障害者に法定最低自給（神奈川県の場合、1071 円）が支払われる。収入機会の少ない障害者の方に少額であってもお金を回すことによって自立を促す。</p>	<p>50</p>